

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海産業医療団地跡地 商業施設棟	階数	地上2階
建設地	東海市荒尾町丸根1番22の一部.66番2.65番 4.62番2.60番2.48番5.宮ノ川52番2.55番	構造	S造
用途地域	第2種住居地域、法22条地域	平均居住人員	1,300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,200 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年6月 予定	評価の実施日	2019年8月5日
敷地面積	10,658 m <sup>2</sup>	作成者	荒井 多佳子
建築面積	3,197 m <sup>2</sup>	確認日	2019年8月5日
延床面積	5,914 m <sup>2</sup>	確認者	中村 和義



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (322 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 85% (274 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 85% (274 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+: 85% (274 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>												
<b>Q1 室内環境</b>												
<b>1 音環境</b>												
1.1 室内騒音レベル		0.4	2.6	0.15								2.5
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40								2.8
1 開口部遮音性能		0.4	3.0	1.00								
2 外壁遮音性能		-	-	-								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-								
1.3 吸音		-	1.0	0.20								
<b>2 温熱環境</b>												
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35								2.6
1 室温		0.5	3.0	0.50								
2 外皮性能		3.0	3.0	0.50					3.0			
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.17								
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.33								
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20								
		3.0	3.0	0.30								
<b>3 光・視環境</b>												
3.1 屋光利用		0.2	3.0	0.25								3.0
1 屋光率		0.5	3.0	0.50								
2 方位別開口		3.0	-	-								
3 屋光利用設備		3.0	3.0	1.00								
3.2 グレア対策		-	-	-								
1 屋光制御		5.0	-	-								
3.3 照度		3.0	-	-								
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.50								
<b>4 空気質環境</b>												
4.1 発生源対策		0.2	3.3	0.25								3.3
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50								
4.2 換気		3.0	4.0	1.00								
1 換気量		0.3	3.0	0.30								
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.50								
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-								
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.50								
1 CO <sub>2</sub> の監視		0.2	2.0	0.20								
2 喫煙の制御		3.0	1.0	0.50								
		3.0	3.0	0.50								
<b>Q2 サービス性能</b>												
<b>1 機能性</b>												
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	0.30								3.0
1 広さ・収納性		0.4	2.9	0.40								2.9
2 高度情報通信設備対応		0.4	3.0	0.40								
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-								
		3.0	3.0	1.00								
1.2 心理性・快適性		0.3	3.3	0.30								
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	5.0	0.33								
2 リフレッシュスペース		3.0	4.0	0.33								
3 内装計画		3.0	1.0	0.33								
1.3 維持管理		0.3	2.5	0.30								
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50								
2 維持管理用機能の確保		-	2.0	0.50								
<b>2 耐用性・信頼性</b>												
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.8	0.31								2.8
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48								
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80								
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20								
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.1	0.33								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.23								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.09								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08								
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	4.0	0.15								
		-	3.0	0.23								
2.4 信頼性		0.1	2.2	0.19								
1 空調・換気設備		3.0	1.0	0.20								
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20								
3 電気設備		3.0	3.0	0.20								
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20								
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20								

人街条例とバリアフリー法を満たしている

売場天井高3.6m以上  
レストスペースが売場面積の3%以上

2種類以上にC以上を使用



**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

東海産業医療団地跡地 商業施設棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	室内空間の快適性の向上を目指し、適切な断熱材、仕上材の選定を行うとともに、LED照明等の積極的な採用により、省エネルギーを図る計画とした。
Q1 室内環境	全面的なF☆☆☆☆の使用や適正な設備計画を行うことで、室内空間の向上を図る計画とした。
Q2 サービス性能	ゆとりのある階高、天井高とした。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地等敷地内環境を整備した。
LR1 エネルギー	適正な断熱材や空調機、照明等設備の選定により、省エネ性能を高める計画とした。
LR2 資源・マテリアル	汚染物質含有材料を使用しない計画とした。
LR3 敷地外環境	省エネ性能向上を図り、LCCO2の排出率を抑え敷地外空間への配慮を図る計画とした。
その他	